

2012年10月から2021年11月までに当院の認知症病棟(A1病棟)に入院した方へ

研究実施のお知らせ

研究の題名：認知症の behavioral and psychogeriatric symptoms of dementia(以下:BPSD)に対する薬物療法の継続についての検討

研究期間：2023年6月8日～2023年9月30日

研究責任者：杏林大学医学部付属病院 精神神経科学教室 多田照生

当院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年6月30日施行)に基づき、匿名化された既存情報(診療録等)の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

(1) 研究の目的

認知症の BPSD に対する薬物療法の継続の必要性について検討を行います。

(2) 予想される医学上の貢献及び意義

認知症の BPSD に対する薬物療法は効果的ではありますが、副作用が生じることも知られています。BPSD を有する認知症患者さんへの長期の薬物療法の適正量を検討することで、薬物療法により生じる副作用が軽減できると考えます。

【研究の方法について】

2012年10月から2021年11月までに当院の認知症病棟(A1病棟)に入院した BPSD を有する認知症と診断された症例の薬物療法について診療録を基に臨床情報を整理、検討し文献による考察を加えます。

【利用する情報について】

〈対象となる患者さん〉

2012年10月から2021年11月までに当院の認知症病棟(A1病棟)に入院した BPSD を有する認知症と診断された症例すべて

〈利用する情報・項目〉

情報：診療録情報

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんに行っていないことはありません。

【情報を利用する者の範囲について】

この研究において取得する情報の利用者は、本学医学部精神神経科学教室の研究者のみです。

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【利益相反について】

この研究のために、企業等からの資金提供はありません。この研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反は存在しません。また、研究責任者は、利益相反について当院倫理委員会に申告し、適切な実施体制であることの審査を受けております。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、メール又はFAXにてご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

杏林大学医学部附属病院 精神神経科学教室

研究責任者 多田 照生

メールアドレス：andymori1984@ks.kyorin-u.ac.jp

FAX:0422-45-4697